（別紙4）　　令和　4　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2191700158		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護　グループホーム椿		
所在地	岐阜県恵那市山岡町下手向1620-2		
自己評価作成日	令和5年2月20日	評価結果市町村受理日	令和5年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191700158-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	令和5年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」の理念のもと、当施設は認知症の方が車椅子となっても安心して生活して頂ける設備を整えてます。看取り介護を含め、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けて頂く事ができます。住む人、働く人、訪れる人、すべての人が心落ち着き癒され五感で想い感じる建物と庭園が一体となる和モダンの造りとなっています。昨今のコロナ禍においても自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や地域の方を交えた施設行事を計画・実施し、入居者様と地域住民の皆様が顔馴染みの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホーム周辺は田畑が多く自然豊かな環境である。幹線道路からも離れており、自動車が走る音なども気にならない地にある。地域住民とは自治会広報などを通じて、緩やかで良好な関係を維持している。管理者は、ホームの委員会活動を通じて、ユニット間の隔たりなく、職員同士がより良い人間関係を築けるよう配慮をしている。災害等の緊急時には、自治会公民館を開放してもらうような段取りも取り付けられている。看取り介護を行っており、看取りを終えた後には、ホーム全体で利用者の退所を見送るなど、個々の尊厳が守られる実践が行われている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係性が作れるよう日々努めております。	職員間で理念を共有できるよう、毎日必ず目にする日報に理念を記載している。また、職員会議の中でも意識できるよう、必要な都度働きかけを行い、全職員に理念が浸透するよう仕組みを設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事にお互いに参加させて頂き、交流の機会を多く設けるよう予定しておりましたが、コロナ禍で実施できませんでした。	地域行事はコロナの影響で中止となる中、自治会からの回覧を通じて、地域住民とかかわりを持っている。緊急連絡網には自治会長の連絡先が掲載されている。現在、「子ども１１０番」登録を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症やその周辺行動についての説明をさせて頂いております。 また市が開催する認知症研修に積極的に参加し、市民の皆様に施設内での実例などを報告させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で入居者様の生活状況などをお伝えしています。また地域の方々のご要望やご意見をお伺いしサービスの向上に活かしていけるよう努めています。ご家族様に運営推進会議の資料を送付するとともに、会議への参加を呼び掛けています。	運営推進会議では利用者の介護度のみならず恵那市内の出身エリアなどを共有し、細かく個々を把握できるよう資料を作成している。会議後は議事録をすべての家族に送付し、共有を図っている。	運営推進会議においては丁寧な統計資料も添付されている。取り組みが更に次回にも繋がるよう、これらの報告について、参加者の発言や話し合った内容等も詳細に議事録に残す工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議への参加を依頼し、担当者と情報交換を行っています。また市主催の研修会やイベントに積極的に参加し、協力関係が築けるように努めています。	運営推進会議において、行政から物価上昇に向けての対応策や、状況把握が行われるなど、日頃から連携を図っている。「子ども110番」は、次年度に向けて検討を重ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル等を通じ職員に身体拘束について周知しています。やむを得ず行う場合は、ご本人様、ご家族様を含め担当者会議を開催し、解除に向け随時モニタリング、担当者会議等行います。また運営推進会議においても毎回「身体拘束適正化委員会」の議題として取り上げさせていただいています。	現在の管理者が就任して3年になるが、身体拘束は一切行っていない。利用者の行動を抑制することのない介護に向けて、職員は研修を重ねながら、ホーム全体で話し合い、支援方法を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成閲覧できるようにしてあり、施設内勉強会にて虐待防止や尊厳について学び、防止に努めております。 職員のメンタル面も観察し、必要に応じて声掛けや相談にて対応しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、スタッフに対し、各種制度について説明を行うと共に、各自で自主的に地域で行われている研修への参加を促しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にはご家族様に施設見学をして頂き、合わせて契約について十分な説明を行っています。不明な点があれば理解、納得していただき、ご了承いただけるよう努めています。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に、入居者様に対する要望を確認。その内容を職員間で共有し、入居者様の生活がより良くなるよう努めております。また、意見箱を設置し、ご家族様や入居者様の意見等を頂けるように努めております。	来訪時や電話に加えて意見箱を設置し、家族からの提案を受け入れる体制を整えている。また、家族には、管理者の携帯番号を伝えており、家族が、直接、気付きや要望を伝えることができ、届いた意見等を運営に反映させている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映しています。 また、年2回の職員個別面談にて意見を聴取し反映しています。	定例の全体会議以外にも、職員とは随時・定期と話し合いを持てる機会を設けている。職員から行事（流しそうめん）の提案があり、それを受け入れたところ、毎年の定例行事となっている。また入浴時同性介助も職員からの提案で取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入る事で職員の努力、勤務状況の把握に努めています。 年2回の人事考課シートや個別面談を通じ、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダーや居室担当などスタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任を持って業務に当たるように指導しています。併せてOJTの実践により質の向上に努めております。今年度より外部リーダー研修や実務者研修受講の支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やイベントの参加などを通じ交流させていただき、意見交換や外部との繋がりを持つ他、お互いが向上出来るような体制づくりに努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様、ご家族様との面談を行い、要望等を確認し、安心して入居していただける体制づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人様、ご家族様との面談を行い、要望等を確認し、安心して入居していただける体制づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談にてご本人様やご家族様の情報を収集し、アセスメントを行い、その時の状況にあったサービスを提供をさせていただき、希望に沿った支援ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」の理念の元に入居者様に安心して暮らせるような関係を築く事ができるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を随時行い、面会や必要物品のお届けを依頼する中で、ご本人様のご様子等を知っていただけるよう関係作りに努めています。またビデオチャットを導入し、ご希望の家族様にはリモート面会を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に面会、外出、行事の案内等を送付し、施設に訪れて頂く機会を確保し、今までのご本人様との関係性が途切れないよう支援に努めています。	コロナ禍の中で制限があるものの、電話や手紙、スマートフォンアプリを通じてコミュニケーションの機会を作っている。家族にはイベントなどの際には写真を送付し、表情を見てもらうようにしている。また近隣の散歩やドライブを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性の把握に努め、入居者様が孤立してしまわないように職員が間に入り、入居者様との関係性を構築できるような支援に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、お電話などで状況をお伺いし、ご本人様やご家族様の介護に対する、不安や悩み等のご相談を頂いた場合は外部機関とも連携し、いつでも支援が行えるように努めています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談にて、ご本人様の暮らしの希望や意向の把握に努め、介護計画、サービスに反映していけるように努めています。	入居前には事前見学を受け入れ、関係者からの事前に得た情報に加え、管理者がアセスメントを行っている。入居後は、本人から聞く話や、職員が声掛けした際の反応等を日々の記録に落とし込み、把握した情報をホーム全体で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談にて、ご本人様の生活歴、暮らし方をお聞きし、入居後も以前と同じような環境で生活ができるよう、馴染みの家具を持ってきていただく等の生活環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の面談にて、ご本人様の以前の暮らし、心身状態の把握を行い、施設での生活が以前の暮らしに沿えるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でご本人様、ご家族様のご意見、ご要望を反映し、介護計画を作成するように努めています。今年度、面会自粛期間は電話やメールにてご家族様に状況報告すると共にご意向を確認させていただきました。	職員の利用者担当制を設けている。ケアプランに基づき、担当者が把握した情報を担当者会議で共有、検討を重ねている。家族の意向は電話や来訪時に確認しプランに落とし込みをしている。	コロナの影響もあり、家族との関わりが制限されたため、担当者会議に参加してもらうことが困難であった。感染症類型が変わることも見通される中で、担当者会議に家族が参加できるような働きかけに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、または介護記録や業務日報等に記入し、職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に関わりケアを行うなかで、既存のケア方法や関わりに固執しがちであるため、「他の方法があるのでは」と職員に課題として提案し、ユニットミーティングなどで検討させ、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様が以前の生活により近い暮らしが出来るように地域資源を把握し、出来る限り利用させていただき、ご本人様の意向に添えるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医については継続か変更かをご家族様と相談をします。定期受診への付き添い支援や月に1回の往診の手配等、ご家族様の希望を大切にし、かかりつけ医との密な連携をとり、適切な医療を受けれるような支援を行っています。	かかりつけ医については、入居時に本人・家族が選択を行っている。現在、利用者の8割程度は協力医とは異なる訪問医を選んでいる。歯科については必要に応じて、家族と協議し受診を促している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で知りえた情報を看護職と情報共有を行い相談しています。常時、入居者様に適切な受診や看護が受けられるように努めております。また、看護師不在時はオンコールの体制も確立しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態変化に早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また搬送先病院等には、かかりつけ医や連携室などを通じ早期な情報提供を行い、受診や入退院が円滑に行われるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化、終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明しています。その後、状況に応じご家族様の意向を再度確認し、かかりつけ医や入院機関の協力のもと、施設での看取り介護、もしくは他施設や医療機関への転居をお願いしております。	入居時や看取り開始期など、必要な都度、家族の意向を確認し看取りについての意向を丁寧に把握している。看取り後には家族の思いに寄り添い、グリーフケアも行っている。最期、ホームから見送る際には、家族の意向を確認し、他の利用者とともに見送りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、緊急搬送等、随時看護師より指導、実技講習を定期的に行い実践力の向上に努めています。また緊急時マニュアルを作成し、有事には速やかに対応できるよう周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回（1回は消防署が立ち合い）の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しております。また市の防災訓練に参加させていただき、地域からの協力が得られるような体制作りに努めています。今年度は水害想定にて地区・市高齢福祉課・危機管理課と共同で訓練を実施しました。	備蓄品は複数の場所に分散して管理している。避難訓練は利用者も実際に避難する事を検討したが、訓練当日が猛暑日となったため見送っている。ホームはハザードマップ上、避難が必要であるが、自治会公民館を避難場所として、ルートの確認や公民館の開錠なども確認している。	今後も、避難訓練を行う際には、利用者にも参加してもらったり、夜間に近い夕方に避難訓練を実施してみるなど、職員のみでは気づけない課題点や新たな発見で、安全な災害対策が出来るよう期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を守れるように日々傾聴し、その方に合った言葉かけを行うように努めています。 行き過ぎた言葉かけを発見した際は、なぜそうなったかを職員同士で一緒に考えるようにしています。	全職員が理念に立ち返り、利用者一人ひとりの人格を尊重した声掛けを行っている。発語の少ない利用者にあたっては、アイコンタクトを大切に、小さな変化にも気づくよう意識しながら支援している。管理者は「代弁者となるよう意識すること」と指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日常生活での思いや希望を傾聴し、ご本人様が自己決定ができるよう支援させていただいてます。特に居室担当者には入居者様の良き代弁者となれるように支援してもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様それぞれのペースや生活リズムを大切にし、支援をさせていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれに希望をお聴し、選択していただけるような支援を行う中で、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、下膳等その方に出来る事を行っていただくよう心がけ、楽しみある食生活を送っていただけるよう支援をさせていただいています。 今年度より給食委員会を立ち上げ、食に関する意識向上を図ることとなりました。	真空パウチされた調理済み食品を仕入れ、ホームで温めて提供を行うことで、本人・家族の負担軽減を維持している。ごはんとみそ汁は職員が作っている。味についても協議ができる関係があり、今後は給食委員会を中心に、より良い食事について検討がなされていく。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録を基に、個々の栄養状態や体重を把握し、食事の提供を行っています。水分補給に関してはご希望ある方はお好きな飲み物を用意し提供しています。また、個別のおやつなどもご家族様にお届けいただくようお願いしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握が出来るよう努めています。また、口腔ケアが出来る限りご本人様で行えるよう支援をさせていただいています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のそれぞれの排泄パターンを把握する事で排泄の失敗がないような支援を行っています。可能な限りトイレでの排泄をしていただけるように、経過を観察し支援をさせていただいています。おむつ業者とも連携し、担当者と相談をすることで問題解決の参考としています。	排泄の自立を促すため、可能な限りトイレへの誘導を行っている。また、適切な排泄用品を選択するためにおむつ業者と連携し家族へ提案を行っている。日々のことであり、コストもかかることから家族とも協議を重ねながら、本人の排泄自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェック表にて確認し、毎日のラジオ体操、口腔体操等の運動に働きかける等、便秘への個々に応じた予防に取り組んでおります。また、下剤についての勉強会をユニット会議にて行いました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めさせていただいてますが、個々に合わせて随時希望を確認し、希望に沿えるえるよう支援させていただいています。	入浴の際に利用するシャンプーや石けんなどは、個々に希望をしたものを持参することができる。2つの個浴に加え機械浴もあり、身体状況に応じて使い分けながら支援している。入浴介助は同性が行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活リズムに合わせた生活が送っていただけるよう支援させていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルを作成している事や看護師からの情報伝達が随時行われており、業務日報、毎日の申し送りにて周知徹底し、症状の把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの趣味や生活歴に合わせ、役割や楽しみごとを提供し、張り合いを感じられる生活が出来るよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に地域のお祭りや、喫茶店、近くのお店に買い物に行く等、外出外泊が出来るよう支援させていただいております。 今年度はコロナ禍のため外出機会がほとんどなくなってしまいました。	コロナの影響で外出に制限があるものの、近隣の散歩やウッドデッキでの外気浴などを行い、室内にこもりがちにならないよう支援している。 希望に寄っては、現地で家族と待ち合わせ、利用者が家族と一緒に買い物が出来るよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設管理ですが、現金所持を希望される方には、ご家族様の理解を得たうえで、ご自分で管理して頂き、お買い物際にはご自分でお支払いいただくよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様に状況をご理解して頂いたうえで、ご本人様からお電話を直接させていただいたいています。また携帯電話の持ち込みも可能です。ビデオチャットでのリモート面会を楽しまれた方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は開放的で、各所に椅子やソファなどを設置しています。照明はすべて暖色系の物を使用し、外の光を感じられるように工夫をしています。庭園には椿と楓が植わっており、畑のスペースでは農作業をされる方もおられます。一年を通して四季を感じて頂ける工夫をしています。	共用空間はAユニットとBユニットで広さや明るさが異なっており、日中は、それぞれが望む場所で過ごすことができる。フロア内には写真や作品が飾られ、観葉植物などが置かれている。ウッドデッキへも車いすのまま出られるバリアフリーとなっており、自由に外気浴を楽しめる。ウッドデッキの先には庭があり、家庭菜園や樹木、鳥の巣箱等を眺めることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは一人の時間が確保できるように、テーブルから離れた所にソファーを設置している事や気の合ったご利用者様同士で過ごす事ができるように座る位置等に留意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾ったり、家具は使い慣れた馴染みのある物をお持ち頂くようにし、新しい環境のなかでもご本人様が居心地よく過ごす事が出来るように努めております。	居室には、利用者が使い慣れた日用品や家具等を持ち込むことができ、家族の写真等も飾っている。過去には亡くなった配偶者の位牌を持参する人や、花嫁道具の三面鏡の持参を希望する利用者もあり、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様のご意思に対し、今ある「できる能力」を活かしながら、ご本人様の自立心が向上するような生活を職員と共に考え支援しています。		